



災害記念碑デジタルアーカイブマップ公開	P-1
企画展示「直売所にフィアット600現る！」開催	P-2
連載(4) 孀恋村の文化財「鎌原の郷倉」	P-3
冬の浅間山に見える弟橘姫	P-3
今後の予定	P-4
お知らせ	P-4

冠雪の浅間山

編集 孀恋郷土資料館友の会

2020年12月発行

第32号

孀恋郷土資料館 友の会だより

孀恋郷土資料館「友の会」（宮崎光男会長）では、新型コロナウイルス感染拡大により様々な企画、活動を自粛もしくは衣替えをせざるを得なくなりましたが、「友の会だより」第32号では、令和2年下半期のイベントや活動の様をダイジェストとしてご紹介いたします。

「災害記念碑デジタルアーカイブマップ」が公開されました

天明3(1783)年の浅間山大噴火で埋没した旧鎌原村の出土品などを展示している孀恋村の孀恋郷土資料館(関俊明館長)では噴火の資料をデータ化し、ネット上で公開を始めました。国立研究開発法人防災科学技術研究所(茨城県つくば市)と連携、「災害記念碑デジタルアーカイブマップ」と題し、噴火に関連する各地の石碑など、長年の調査で蓄積された情報を地図上に落とし込んでいます。過去の教訓を踏まえて、防災意識を高める狙いがあります。浅間山噴火による被害は甚大で広範囲に及び、「泥流到達の碑」など、後世に教訓を残そうと建てられた碑もあります。犠牲者の遺体が利根川下流域まで流れ着き、供養碑や地蔵が設けられた例もありました。これらの石造物は関館長が会長を務める「天明三年を語り継ぐ会」が10年以上前から調査を進めており、本県のほか、長野、埼玉、東京、千葉の5都県で178基が確認されています。

災害記念碑デジタルアーカイブマップアドレスは

【https://dil-db.bosai.go.jp/saigai_sekihi/】

天明三年石造物は、「1783年浅間山噴火」タブをクリックしてください。郷土資料館内でも展示されています。



大田蜀山人浅間山噴火記念碑(鬼押し出し園)



三十三回忌供養塔(観音堂)

企画展示「直売所にフィアット600現る!」開催

2020年11月19日(木)～2021年5月7日(金) まで企画展示「直売所にフィアット600現る!」が郷土資料館ほかで開催されています。

高原野菜の生産地として知られる婦恋村では、今年、夏秋キャベツ 50年連続日本一の栄冠に輝きました。農産物直売所「あさまのいぶき」におかれたいにしへのトラクター「FIAT600」を鍵にして、村の農業発展の礎を振り返る機会にしたいと思います。よりよい作物を育てるために費やされる田畑を耕すための力、どの時代にあっても共通する課題でした。先代、先々代、あるいは、その以前からの苦闘には牛馬・農業機械とともに歩んだ歴史があります。人力、畜力から動力機械による農業体系の変化が、現在の農業の進展を迎えました。季節ごとの安全安心な高原野菜を求めに来られるお客さまをお迎えする「FIAT600」は、昭和 47年に導入された輸入トラクターです。半世紀前のエンジン音を聞きながら、農業機械の変遷と農業の歴史を俯瞰し、高原野菜を手にしていただけたら幸いです。



- 展示の内容
- 1 鋤と鋤と犁 一人力から畜力、そして動力へー
 - 2 「鐵の馬」・その名はトラクター ートラクターの発達史(年表)ー
 - 3 直売所の FIAT600
 - 4 婦恋村へ導入された大型トラクター
 - 5 各社の大型トラクター
 - 6 松山犁(松山記念館紹介)・映画「婦恋」昭和 31 年



連載(4) 孀恋村の文化財「鎌原の郷倉」村指定重要文化財



鎌原神社の参道脇にある鎌原の郷倉は、永年貯蔵に堪えられる稗(ひえ)等が強制的に積み込まれた備荒貯穀が目的で、完全な形で保存されている村内唯一の郷倉です。鎌原の郷倉は、天明8年(1788年)に建てられたと記録が残り、規模は間口二間余(3.9メートル)、奥行き一間半(3メートル)と郷倉の中では比較的小さく、外観は防火性、断熱性をもつとされる土蔵で、構造体は手斧(ちょうな)で製材されたマツ材を用い、壁隅部で互いに切りかかれ井の字型に組まれ積み上げられる井籠倉(せいろうくら)といえます。



鎌原の郷倉は、中部地方の山岳地帯における土塗り板倉の特徴を示し、現在では稀な茅葺きの置き屋根を残す近世の蔵の特徴を知ろうと貴重な建造物で、孀恋村の重要文化財にも指定されています。昭和54年公開の映画「男はつらいよ」第25作の寅さんのロケ場所にもなりました。

628 男はつらいよ 寅次郎ハイビスカスの花 出演x渥美清 14414867

冬の浅間山に見つけた弟橘姫

3月の半ば、鬼押し出し園入り口付近より見た浅間山です。

赤丸の中をじっと見ると浮かび上がってくるのは弟橘姫のような... 「古事記」には日本武尊が東征の帰り路、走水で嵐を鎮めるために入水した愛妻の弟橘姫を慕い、「その坂に登り立って、三度お嘆きになり、『あづまはや(吾が妻は...!)]とおっしゃられました。それゆえそこの国を名付けて『あづま』といいます。」とあります。

その坂の候補はあちこちにあるようですが...

その昔、日本武尊が孀恋村の鳥居峠へと向かう坂からこの浅間山に浮かぶ弟橘姫の姿を見て思わず、妻を慕う言葉が出てきたのではと考えると、何ともロマンティックな話とは思いませんか。



今後の予定

- ・令和2年度「婦恋学」講座予定：中止となりました。
- ・友の会年次総会の予定：令和3年3月末に開催予定となっています。
- ・「ボランティアガイド養成講座」の予定：令和3年4月に開催を予定しております。

お知らせ

・郷土資料館南側に農産物等直売所「あさまのいぶき」が8月1日にオープンいたしました。地元で生産・収穫される農産物・加工品を取り揃えて販売されています。フィアット600トラクターもやってきました。



編集担当より

本年も皆様方のご協力により無事「友の会だより」の発行ができましたこと厚く御礼申し上げます。
また、新型コロナウイルス感染騒動の中、ご自愛の上ご活躍をお祈りいたしております。